

## 正誤表

このたびは『リハ実践ポケット手帳～PT・OT・STのリスク管理』をご購入いただきまして誠にありがとうございます。  
本書の第1刷（2021年8月2日発行）に以下の誤りがありましたので、ここに訂正し、謹んでお詫び申し上げます。

2021年9月30日作成

訂正箇所	誤	正	更新年月日
9ページ	「尿量：基準値1 mL/kg 時間, 1,000 ~ 1,500 mL/日, 0.5 mL/kg/時間未満または400 mL/日未満で, 乏尿不感蒸泄は基準値15 mL/kg/日とする」に修正があります	「尿量：基準値1 mL/kg 時間, 1,000 ~ 1,500 mL/日, 0.5 mL/kg/時間未満または400 mL/日未満で, 乏尿不感蒸泄は基準値15 mL/kg/日とする」となります	2021年8月31日
11ページ	正常値につきまして「P幅：0.06~0.10秒, QRS幅：0.05~0.08秒, T幅：0.16~0.25秒, U幅：0.16~0.85秒, P-Q幅：0.02~0.04秒, QT時間：0.35~0.44秒」に修正があります	「P幅：0.06~0.10秒, QRS幅： <b>0.06~0.10</b> 秒, T幅： <b>—</b> , U幅： <b>—</b> , <b>PQ時間：0.12~0.20</b> 秒, QT時間：0.35~0.44秒」となります	
15ページ	視診のポイントの表の項目「呼吸パターン」のポイントの中で「・片側の胸郭拡張性低下は含気低下をきたす病変の存在が示唆される」に修正があります	「・ <b>片側</b> の胸郭拡張性低下は含気低下をきたす病変の存在が示唆される」となります	
18ページ	表の項目「②脳室・脳槽ドレーン」の「ポイント・注意点」の中で「・介入時にクランプが必要な場合がある（詳細はp●●参照）」に修正があります	「・介入時にクランプが必要な場合がある（詳細はpp <b>56~57</b> を参照）」となります	
32ページ	表の「離床後チェックリスト」の項目の「30°・60°・車いす」に修正があります	表の「離床後チェックリスト」の項目の「30°・60°・車いす・ <b>歩行</b> 」となります	
37ページ	ADLの予後予測に参考となる基準値一覧の項目の「その他」の中で「*低栄養の判断基準はpp266~267を参照」に修正があります	「*低栄養の判断基準はpp <b>264~265</b> を参照」となります	
55ページ	コラムの上から3行目「骨髄シャント術」に修正があります	「 <b>髄液</b> シャント術」となります	
56ページ	開放式ドレーナージ（脳室ドレーナージ）の表の項目「注意点」の中で「・排液量の増加に伴う, 低髄圧症状（頭痛, 嘔気など）の変化」に修正があります	「・排液量の増加に伴う, 低髄 <b>圧</b> 症状（頭痛, 嘔気など）の変化」に修正となります	
64ページ	図の「①疼痛遷延（p69を参照）」に修正があります	図の「①疼痛遷延（ <b>p67</b> を参照）」となります	
64ページ	図の「②インプラント周囲骨折（p95を参照）」に修正があります	図の「② <b>インプラント周囲骨折</b> 」となります	
69ページ	「ポイント②：D-ダイマーはDVTとPTEの指標とされやすいが, 感染や手術侵襲, 悪性新生物などの他の要因においても上昇する。そのためD-ダイマーの上昇を認めない場合（低い特異度）, DVTとPTEの発生リスクは低いと判断される」に修正があります	「ポイント②：D-ダイマーはDVTとPTEの指標とされやすいが, 感染や手術侵襲, 悪性新生物などの他の要因においても上昇する（ <b>低い特異度</b> ）。 <b>そのためD-ダイマーの上昇を認めない場合</b> , DVTとPTEの発生リスクは低いと判断される」となります	
103ページ	「ポイント②：骨付き膝蓋腱による再建法（BTB）の利点には, 靭帯強度が強力であること, 術後早期の固定性に優れることがあげられ, 欠点には膝伸展筋力の回復遅延や膝関節前面痛の愁訴が多く, 膝関節伸展制限が生じやすい」に修正があります	「ポイント②：骨付き膝蓋腱による再建法（BTB）の利点には, 靭帯強度が強力であること, 術後早期の固定 <b>性</b> に優れることがあげられ, 欠点には膝伸展筋力の回復遅延や膝関節前面痛の愁訴が多く, 膝関節伸展制限が生じやすい」となります	
109ページ	表の下の「SER：Supination External Rotation」に修正があります	「SER： <b>Supination</b> External Rotation」となります	
110ページ	表の項目「手術療法」の「3週」に修正があります	表の項目「手術療法」の「 <b>2週</b> 」となります	
110ページ	表の項目「手術療法」の「5週」に修正があります	表の項目「手術療法」の「 <b>4週</b> 」となります	
122ページ	表の「拡張早期ピーク血流速（E）/心房収縮期ピーク血流速（A）（E/A）の中で「・拘束型波形：>1.0」に修正があります	「・拘束型波形： <b>&gt;2.0</b> 」となります	
147ページ	図のタイトル「Forreater分類」となります	「Forre <b>s</b> ter分類」となります	
164ページ	図の下の「※A-aDO <sub>2</sub> =PaO <sub>2</sub> -PaO <sub>2</sub> 」に修正があります。	「※A-aDO <sub>2</sub> =P <b>A</b> O <sub>2</sub> -PaO <sub>2</sub> 」となります	
174ページ	図の左下の「S4」に修正があります	「 <b>S8</b> 」となります	
177ページ	表の「静音」に修正があります	「 <b>清音</b> 」となります	
183ページ	非麻薬性鎮痛薬の表の「トマドール」に修正があります	「 <b>トラ</b> マドール」となります	
184ページ	表のNRS（Numeric Rating Scale）の特徴で「痛みを1から10の～」に修正があります	「痛みを <b>0</b> から10の～」となります	

訂正箇所	誤	正	更新年月日
212ページ	表の「腎機能」項目の「腎不全症状」の中で「・心不全、・高カリウム血症、骨、・ミネラル代謝異常」に修正があります	「・心不全、・高カリウム血症、・骨 <b>ミネラル代謝異常</b> 」となります	2021年8月31日
214ページ	表の「時間・度」項目の「腹膜透析（PD）」の中で「・持続的携帯式腹膜透（CAPD）：20～30分、4回／日」に修正があります	「・持続的携帯式腹膜透 <b>析</b> （CAPD）：20～30分、4回／日」となります	
222ページ	表の「腎毒性のある薬剤」項目で「・アンギオテンシンⅡ変換酵素阻害薬」と「・アンギオテンシンⅡ受容体拮抗薬」に修正があります	「・ <b>アンジオテンシン</b> 受容体拮抗薬」となります	
230ページ	ポイント②に記載の「α-グルコシターゼ阻害薬」に修正があります	「α-グルコシ <b>ター</b> ゼ阻害薬」となります	
233ページ	ポイント②に記載の「α-グルコシターゼ阻害薬」に修正があります	「α-グルコシ <b>ター</b> ゼ阻害薬」となります	
302ページ	α-グルコシターゼ阻害薬	「α-グルコシ <b>ター</b> ゼ阻害薬」となります	
251ページ	表の「②機能的」の中で「・加齢による摂食嚥下機能の変化（p254を参照）」に修正があります	「・加齢による摂食嚥下機能の変化（ <b>p252</b> を参照）」となります	2021年9月30日